

弘前大学温室効果ガス排出抑制等のための実施計画

平成30年 3月

弘 前 大 学

地球温暖化は、人類が持続的・継続的に科学技術の発展と社会的生活の向上を目指して利便性を追求し、歩んできた証拠として人類に突きつけられた大きな問題である。

本実施計画は、未来社会の発展と安心な地球環境の確保のために、地球温暖化問題解決に努力し持続可能な社会の構築に必要な計画である。

(目的)

「地球温暖化対策計画」(平成28年5月13日閣議決定)では温室効果ガスの総排出量を2030年度において2013年度比26.0%減(業務部門(学校等)は40%減)させることを目標としている。これを受けて本学では、温室効果ガス排出量の削減約束を達成するため、排出量抑制等の措置を含めた地球温暖化対策の計画的ならびに積極的な取組を行うことを目的とする。

(計画対象期間及び範囲)

本計画は平成30年度から平成34年度の5年間を対象とする。本計画は弘前大学の全てのキャンパスを対象範囲とする。

(数量的削減目標)

本学における毎年度の温室効果ガス(CO₂)排出量※を、平成27年度(2015年度)を基準として平成30年度(2018年度)から平成34年度(2022年度)までの5年間で5%削減することを目標とする。

なお、本削減目標は電力、A重油、都市ガス等の使用量が省エネルギーに向けた取組とも密接に関連することから、それらの削減も併せて努力する。

※弘前大学平成27年度排出量：27.9(千t-CO₂)

(前実施計画でCO₂排出量の少なかった年が平成27年度)

(温室効果ガス排出抑制等のために実施する措置)

以下に示した地球温暖化対策の措置を積極的に実行し、温室効果ガス(CO₂)排出量の抑制に努める。

(1) 温室効果ガス排出量の把握

①全学としての温室効果ガス(CO₂)排出量の定期的な把握

(2) 冷暖房の適切な温度管理

①冷房(28℃)の適正な温度管理を行う(実験・研究用等特殊な条件で使用する冷房は除く)

②暖房(20℃)の適正な温度管理を行う(実験・研究用等特殊な条件で使用する暖房は除く)

(3) エネルギー使用量の抑制

①クールビズ、ウォームビズの励行

- ②冷暖房中の窓、出入口は開放禁止
 - ③放熱器のサーモバルブによる制御
 - ④空調機の適切な使用
 - ・空調機器の ON, OFF タイマーを積極的に活用する
 - ・遠隔スイッチによる運転管理を利用する（遠隔スイッチのある場合）
 - ・フィルターの定期的な清掃を行う
 - ・冷房の代替えとして扇風機、うちわの活用
 - ⑤家電製品の電源を切るなどの消費電力の削減
 - ・OA 機器の省エネモードへの設定変更を行う
 - ・待機電力を消費する家電製品は長時間使用しないときは主電源を切る
 - ・7月から9月の暖房便座停止
 - ⑥昼休み等における消灯やこまめな消灯の徹底
 - ・昼休みは、業務上特に照明が必要な箇所を除き、安全に配慮しつつ消灯する（夜間・休日の業務における照明も必要最小限の範囲で点灯）
 - ・日中の窓際等における照明は、可能な限り消灯する
 - ⑦エレベータ使用の見直し
 - ・上下階への移動は階段を利用する
 - ・降階への移動は階段を利用する
 - ⑧自動点滅センサーの積極的な増設
 - ⑨既設照明器具（蛍光灯等）から LED 照明への切替を推進
 - ⑩省電力型自動販売機への更新を業者に依頼する
 - ⑪暖房通気中は、ガスストーブや電気ストーブ等の補助暖房は原則使用しない
- (4) 太陽光発電等新エネルギーの有効利用
- ①太陽光、風力発電等を利用した照明等の活用
 - ②地熱を利用した融雪装置の活用
- (5) エネルギー消費効率の高い機器の導入
- ①省エネルギー型製品（高効率型製品）の積極的な導入
 - ・家電類、照明器具、OA 機器等の旧型製品の廃止ならびに省エネ製品の計画的買い換えを促進する
- (6) 水の有効利用
- ①節水の徹底
 - ・感知式の洗浄弁、自動水栓等の節水に有効な器具を設置する
- (7) 用紙類の使用量削減
- ①コピー用紙等の使用量を適切管理し削減
 - ②会議用資料や事務手続きの一層の簡素化
 - ・支障のない範囲で両面コピー、集約コピーを活用する
 - ・ミスコピーや使用済み文書については可能な限り裏面を再利用する
- (8) その他
- ①環境物品等のエコ製品の積極的な選択
 - ②コピー用紙の節約等による廃棄物の発生抑制等
 - ③公用車、スクールバス等の効率的利用
 - ④公用車、自家用車、スクールバスのアイドリングストップの推進
 - ⑤ホームページ等による職員に対する啓発活動等
 - ⑥児童・生徒・学生等に対する啓発活動等

- ⑦一斉夏季休暇の導入ならびに活用
- ⑧冷蔵庫、冷凍庫の集中化
- ⑨恒温室等の集中化
- ⑩公共交通機関の利用に努力する
- ⑪ゴミの分別回収の徹底
- ⑫コピー機、プリンターなどのトナーカートリッジの回収と再使用
- ⑬各部署の状況に応じた定時退庁日を設け光熱水料を抑制
- ⑭学内緑化の推進